

	分析項目	算 式	平成26年度	備 考
回 転 率 (回)	自己資本回転率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\{(\text{期首自己資本}+\text{期末自己資本})\div 2\}}$ 自己資本=資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益	0.15	自己資本に対する営業収益の割合で、期間中に自己資本の何倍の営業収益があったかを示すものである。この比率が高いほど投下資本に比して営業活動が活発であることを意味する。
	固定資産回転率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\{(\text{期首固定資産}+\text{期末固定資産})\div 2\}}$	0.15	固定資産に対する営業収益の割合で、固定資産回転率が高い場合は施設が有効に稼働していることを示し、一方、低い場合は一般的に過大投資になっていることが考えられる。
	流動資産回転率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\{(\text{期首流動資産}+\text{期末流動資産})\div 2\}}$	1.52	流動資産の経営活動における回転度を表す。この率が過大であるときは流動資産の平均保有高が過小であり、過小であるときは流動資産の平均保有高が過大であることを表す。
	未収金回転率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\{(\text{期首未収金}+\text{期末未収金})\div 2\}}$	4.93	未収金に対する営業収益の割合を表す。この率が高いほど未収期間が短く、早く回収されることを表している。
収 益 率 (%)	総資本利益率	$\frac{\text{経常利益}-\text{経常損失}}{\{(\text{期首総資本}+\text{期末総資本})\div 2\}} \times 100$	1.41	経営する側から総資本(負債・資本合計)の収益性を見るもので、事業の経常的な収益力を総合的に表す指標で、この指標が高いほど、総合的に収益性が高いことになる。
	総収支比率	$\text{総収益} \div \text{総費用} \times 100$	106.62	収益性を見る際の最も代表的指標である。経常収支比率は、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを示すもので、この比率が高いほど経常利益率が高いことを表し、これが100%未満であることは経常損失が生じていることを意味する。なお、総収支比率、経常収支比率の差異は特別損益によるものである。
	経常収支比率	$\frac{\text{営業収益}+\text{営業外収益}}{\text{営業費用}+\text{営業外費用}} \times 100$	110.07	
	営業収支比率	$\frac{\text{営業収益}-\text{受託工事収益}}{\text{営業費用}-\text{受託工事費用}} \times 100$	101.48	収益性を見るための指標の1つで、営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示す。この比率が高いほど営業利益率が良いことを表す。